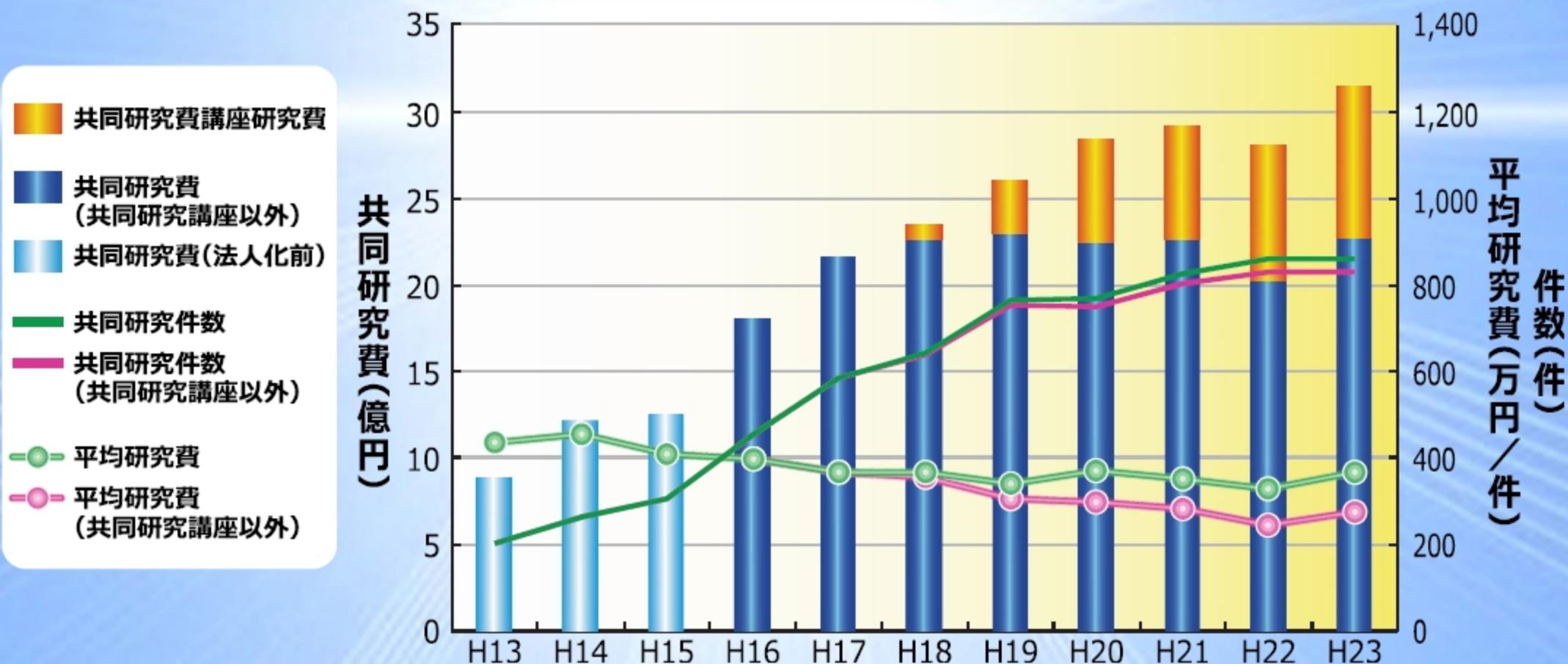


共同研究講座実績(共同研究講座を含む)

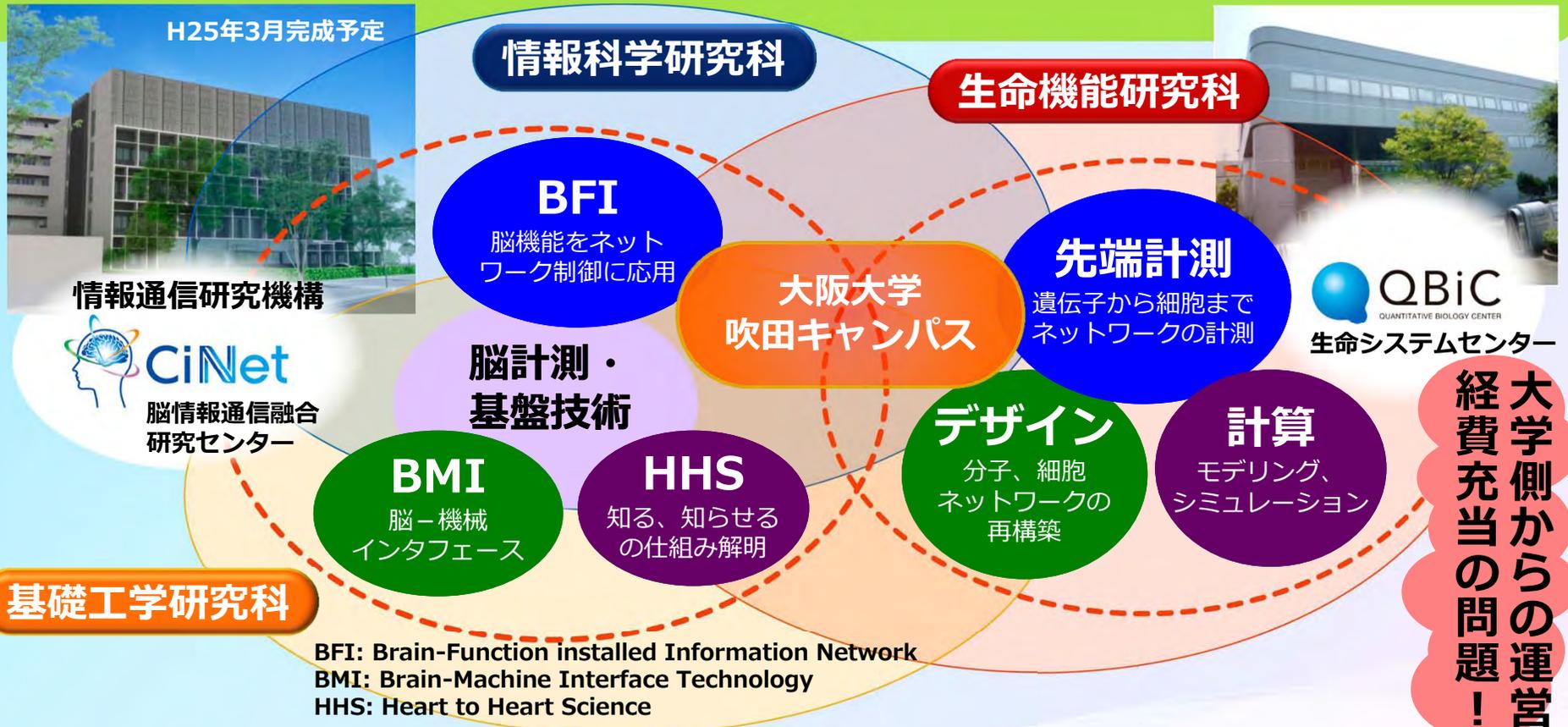


全共同研究	件数	204	265	306	457	586	643	764	768	826	859	859
	研究費(億円)	8.9	12.1	12.5	18.1	21.6	23.5	26.0	28.4	29.2	28.1	31.5
	研究費平均(万円)	436	457	408	396	369	365	340	370	354	327	367
共同研究講座 (内数)	件数						3	11	18	24	28	29
	研究費(億円)						0.8	3.0	5.9	6.5	7.9	8.7
	研究費平均(万円)						2,700	2,800	3,300	2,700	2,800	3,000

学外の知を学内に呼び込む仕掛け(官学連携強化)

Industry on Campus → National Research Center on Campus

世界をリードする二つの
研究センターをキャンパス内に



- 本学キャンパス内に新センターCiNetとQBiC（ともに150名規模）を既に立ち上げ、3研究科で複雑ネットワークに関する融合研究やプロジェクト研究を開始している
- これら2センターを活用し、世界トップレベルの研究環境での博士人材育成を目指す

リサーチ・ユニバーシティ構想 日本は何処を向いてシナリオを考えるのか



- GDP/人口、国土の大きさ、社会情勢・体制、大学に対する基盤経費の規模等に関して類似性がある。
- オックスブリッジをはじめ、英国の大学は、世界のトップ大学としての存在感を維持している。

実際、国立大学法人化、総合科学技術会議の改組などは、英国をモデルにした(している)と思われる。

その英国の大学で
起こっている
非常に大きな動き

RAE
(Research Assessment
Exercise)

大学のアクティビティを研究・教育実績等で
ランキングした上での強化経費を配分

英国の反省

リサーチ・ユニ
バーシティ構想

RAE的な経費であり、国立大学法人の従来の
中期目標・計画の**達成度評価とは異なる評価
指標**を適用して、研究力を強化

- 評価のオーバーヘッドが大きい
- 文系の弱体化が起こっている

1995年以降のある時点において、補助金全体の内、
8,000万ポンドを配分し直すために、2,700万ないし
3,700万ポンドのコストを要した、とも言われている

リサーチ・ユニバー
シティ構想に望むこと

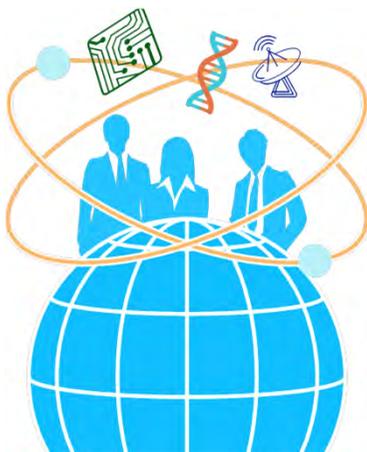
- 評価**指標**の精査（特定の学術領域の弱体化が起ってはならない。特許件数などは指標にすべきでない。）
- 書類作成の**負担**の軽減
- 申請段階の**作業負担**が極力生じない方法の検討
- 取組状況の報告等においても各大学の**書類作成等の負担**が大きくなならないような配慮が必要

研究力評価としての世界大学ランキング

- 日本は非欧米諸国のなかで、おそらく比類のない高等教育の独立性をもつ国で、そのことが今の日本の科学技術と学術を支えているだけでなく、日本の教育それ自体の魅力にもなっている。しかし、「グローバルな評価」は必至である。
- 世界大学ランキングにおいて高い大学ランキングを維持することは、卒業生を含めた大学の構成員全ての利益になる。また、日本にとっては、今後海外人材の受け入れだけでなく、国内トップ人材の過度の海外頭脳流失を防ぐためにも、**世界ランキングには注視する必要がある。**



- しかしながら、ランキングは大学の研究力（あるいは教育力）の「評価」であると勘違いしてはいけない。**大学の研究の多様性は単一の指標で計れない。** 広く公表されている各種の世界大学ランキングの中には、客観的にデータの検証が難しい項目が含まれたり、評価のウェイトが頻繁に変わるものもある。そのような主観的な要素を含む世界大学ランキングに振り回されず、いかに「**戦略的に参照するか**」が肝要である。
- 将来の研究推進策としては、**世界に与えるインパクトの向上を目指すべきで、ペーパー数を増やすことを目指してもスモールペーパーが増えるだけではないか。** そのための**非常に優れた独創的な研究、その萌芽をいかに育てるか。** それを論文引用で計れる分野だけでなく、**文系も含めていかに発掘して、育てるか。** 海外の人材も呼び込めるようにするか。



イノベーションの促進のために求められる真の技術者の育成

第1のイノベーション



サイエンス、テクノロジー

異分野の科学技術を組み合わせ、システムとして統合し、新しい展開をはかる。

第2のイノベーション



ユーザ

- 科学技術だけでなく、**学術全般**、特に**人文社会科学的視点**が必要
- システム的視点に立ち、多様な環境を考えた**グローバルな立場**からの研究開発が大切
- 科学技術を**芸術創造**にまで結びつけてきた我が国の優位性を活かすことが重要
- **課題解決型**の研究が大切であり、**社会の人たちの参加**が必要
- **ルール(標準化)**を制することが重要

課題解決型の研究に、様々な学問分野がかかわる**システム的アプローチ**が必要

第3のイノベーション



ソーシャル

産学連携による
高度人材育成！

大学院生(特に、博士課程修了者)は、狭い分野の知識だけでなく、異分野との**バランス感覚**、**コミュニケーション能力**、**グランドデザイン能力**を持ち、**システム全体を評価**できる能力が必要